美丽中国
Beautiful China

中国の世界遺産

全域旅游
INTEGRATED TOURISM

美丽中国—2018全域旅游年
Beautiful China—Year of Integrated Tourism 2018

前書き

中国の世界遺産は、ユネスコの世界遺産に登録されている中華人民共和国の文化・自然遺産である。2018年7月の時点で中国の世界遺産は合計53件の世界遺産が登録されている。そのうち文化遺産（顕著な普遍的価値をもつ建築物や遺跡など）が36件、自然遺産（顕著な普遍的価値をもつ地形や生物多様性、景観美などを備える地域など）13件、複合遺産（文化と自然の両方について、顕著な普遍的価値を兼ね備えるもの）が4件である。

最後に、数千年から1億年の時を経て残されたこれらの世界遺産は、わずかの歳月で次々と世界遺産リストに登録された。われわれはそれらを保護、維持し、後世へ引き継いでいかなければならない。この本を通じて今まで知らなかった中国の世界遺産の魅力を知り、中国を訪ねる際の参考にし、いい思い出を残していただきたいと願っている。どうぞお楽しみのほどを。

文化遺産

01. 万里の長城……02
02. 北京と瀋陽の明・清王朝皇宮……03
03. 敦煌莫高窟……04
04. 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑……05
05. 周口店の北京原人遺跡……06
06. 曲阜の孔廟、孔林、孔府……07
07. 承徳避暑山荘と外八廟……08
08. 武当山の古代建築群……09
09. ポタラ宮、大昭寺、羅布林卡……10
10. 廬山国家公園……11
11. 平遥古城……12
12. 麗江古城……13
13. 蘇州の古典庭園……14
14. 天壇……15
15. 頤和園……16
16. 大足石刻……17
17. 青城山と都江堰……18
18. 龍門石窟……19
19. 安徽省南部の古村落：西遞、宏村……20
20. 明・清王朝の皇帝陵墓群……21
21. 雲崗石窟……22
22. 高句麗王城、王陵及び貴族の古墳……23
23. マカオ（澳門）旧市街……24
24. 殷墟……24
25. 開平の望楼と村落……25
26. 福建土楼……25
27. 五台山……26
28.「天地之中」歴史建築群……27
29. 杭州西湖の文化的景観……28
30. 元時代上都の遺跡……29
31. 紅河ハニ棚田……29
32. シルクロード……30
33. 大運河……30
34. 土司遺跡群……31
35. 左江花山の岩絵の文化的景観……31
36. 鼓浪嶼……32

自然遺産

37. 九寨溝……33
38. 黄龍……34
39. 武陵源……35
40. 三江併流……36
41. 四川省のパンダ生息地……37
42. 中国南方カルスト……38
43. 三清山……39
44. 中国丹霞……40
45. 澄江の化石出土地域……41
46. 新疆天山……42
47. 神農架林区……43
48. 可可西里……44
49. 梵浄山……45

複合遺産

50. 泰山……46
51. 黄山……47
52. 峨眉山と楽山大仏……48
53. 武夷山……49

万里の長城 ばんりのちょうじょう

【世界遺産委員会の評価】

紀元前220年、天下を統一した秦の始皇帝（紀元前259～前210年）は、早い時期に造られた防御施設を一つに繋げて、それによって北方からの攻略に抵抗した。明代（1368～1644年）にまた引き続き建設され、その価値は、古代中国の歴史と戦略上の重要性にある。

1987年12月11日世界遺産に登録された。

東の遼寧鴨緑畔から、西の甘粛嘉峪関まで、戦国時期（紀元前480～前221年）から造り始め、清代（1616～1912年）に長城の工事はやっと大部分を終えた。長城は河北、北京、内蒙古、山西、陝西、寧夏、甘粛などにわたっており、全長は約8851km、世界で最も長い防御施設である。防御以外にも、歴史上、通信と行商人の往来保護において重要な役割を果たした。

山海関、八達嶺、慕田峪、嘉峪関などは、長城の重要な区間である。そのうち、八達嶺は明代の長城の最も傑出している代表で、要塞に位置するため、道が四方八方に通じていてその名がついた。司馬台長城は「驚、険、奇」で有名である。嘉峪関長城は「天下の険しい関所」と称され、現存する長城の中で最も完備している堅固な関所である…中国は古来より「長城に登らざるは好漢に非ず」という言葉があり、長城は中華民族の精神力のシンボルになっている。

北京と瀋陽の明・清王朝皇宮 ぺきんとしんようのみんしんおうちょうこうきゅう

【世界遺産委員会の評価】

紫禁城は中国近代500年以来の最高権力の中心であり、庭園景観と家具や工芸品を収めた9000室の部屋がある巨大な建築群で、明・清時代における中国文明の貴重な文化財となっている。

北京故宮は1987年12月11日、瀋陽故宮は2004年7月1日世界遺産に登録された。

北京故宮、また紫禁城と称し、明朝の永楽４年（1406年）に造り始め、永楽１８年（１４２０年）に完成した。前後２４人の皇帝はここで即位して政権を握った。占有面積は７８万㎡、世界に現存する規模最大、中世後期の木造建築群である。

瀋陽故宮は遼寧省瀋陽市に位置し、わずかに残る中国少数民族の地方政権の宮殿であり、さまざまな古建築が１１４軒ほど現存している。瀋陽故宮は満州族が漢、モンゴル、チベットなどの民族建築技術と芸術を、自民族の社会制度、生活習俗、審美観に融合して、造られたものである。

敦煌莫高窟 とんこうばっこうくつ

【世界遺産委員会の評価】

敦煌莫高窟は、古代シルクロードの交通の要所に位置したことから、東西の貿易の中継地であり、また宗教、文化および知識が融合しあう合流地でもあった。莫高窟には保存が完全な石窟は492個があり、彩色塑像と壁画で世界的によく知られている。それらは千年にわたって続いた仏教芸術を示すものである。

1987年12月11日世界遺産に登録された。

莫高窟は「千仏洞」とも呼ばれていた。莫高窟は甘粛省敦煌市から東南へ25km離れた鳴沙山の東麓の絶壁上にあり、洞窟の掘削は前秦の建元二年（366年）から、元の時代に通し、現在、735の石窟があり、中では保存が完全な石窟は492個があり。壁画は4.5万㎡あり、泥質の彩色塑像は2415体、世界で現存する最大規模で、最も豊富な仏教芸術の聖地である。

壁画は洞穴の四壁、窟頂と仏龕に描かれており、宗教及び世俗生活を表現している。2mの高さにして並べると25kmの長さに及ぶ。

飛び交う飛天（仏教における空中を舞う天女）が敦煌芸術のシンボルとなっている。

莫高窟の塑像は多種多様で、形も豊富である。莫高窟のシンボルとなっている建築は9階建ての楼閣である。中に35.6mの弥勒大仏坐像は中国で三番目大きな仏坐像である。

秦の始皇帝陵と兵馬俑坑 しんのしこうていりょうとへいばようこう

【世界遺産委員会の評価】

1974年に発見されていなければ、この遺跡における千点を数える陶俑は今なお地下に眠っていたであろう。

秦の始皇帝陵は始皇帝生前の都、咸陽の都市設計を模したものである。陶俑の形態はさまざまで、戦馬、戦車、武器もすぐれた傑作であり、同時に極めて高い歴史価値がある。

1987年12月11日世界遺産に登録された。

秦の始皇帝陵は陝西省西安市臨潼区東5kmの驪山の北麓にあり、中国歴史上最初の皇帝陵墓である。紀元前246年に創建、38年間かけて完成された。面積56.25㎢のこの陵墓は史上最大規模である。

陵園の東側1500mに位置する兵馬俑坑は秦の始皇帝陵の陪葬墓である。発掘された兵馬俑坑は三つあり、坑内には陶俑陶馬8000点、4万余点の青銅器がある。三つの兵馬俑坑は「品」字形に並んでいる。

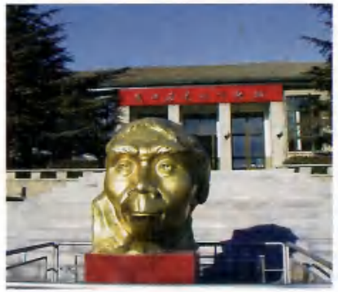
周口店の北京原人遺跡 しゅうこうてんのぺきんげんじんいせき

【世界遺産委員会の評価】

北京周口店の原人遺跡は古代アジア大陸の人類社会の貴重な歴史的な文化財であり、類人猿から現代人への進化過程を反映している。

1987年12月11日世界遺産に登録された。

周口店の北京原人遺跡は、北京市の中心部から南西に約50kmの房山区周口店村龍骨山に位置する。周口店遺跡の面積は2.4㎢で、1929年に比較的整った北京原人の化石が出土されたことで有名になった。旧石器時代（約250万年～1万年前）初期の人類の遺跡であり、又、考古学上大変重要な遺跡にもなっている。



曲阜の孔廟、孔林、孔府 きょくふのこうびょう、こうりん、こうふ

【世界遺産委員会の評価】

孔子は紀元前6世紀から紀元前5世紀の中国春秋時代の偉大な哲学者であり、政治家、教育者である。孔子の廟、墓地、邸宅は山東省の曲阜にある。曲阜の旧建築群が独特の芸術や歴史的な特色を備えている原因は、2千年以上に亘って中国の歴代皇帝が孔子を崇拝し、その建築群を修繕して保護してきたのである。

1994年12月16日世界遺産に登録された。

山東省曲阜市に位置し、孔子（紀元前551～前479年）とその末裔を祀った廟である孔子廟、墓地である孔林、邸宅である孔府を合わせて「三孔」と呼ばれ、それらは約千個の建築物を有する巨大な建築群である。

「衍聖公府」とも呼ばれる孔府は、孔子の直系が暮らしていた住宅である。孔府には6万点以上の明・清時代の文書が収納されている。この数は中国最多で、まさに巨大な宝と言うにふさわしい。

曲阜城の中央に位置する孔子廟には孔子が祀られている。孔子廟には歴代（紀元前149～1949年）の碑文を記した石碑などが1044個現存しており、当時の社会の政治、経済、文化、芸術を研究する貴重な文化財である。

「至聖林」とも呼ばれる孔林は、曲阜城から北に1kmに位置し、孔子とその後裔が眠る墓地である。これまでに2500年以上にわたり使用されてきており、孔子一族の墓は10万以上にのぼる。ひとつの家系が葬られた墓地としては、世界で最も歴史が長く、規模も最大である。

承徳避暑山荘と外八廟 しょうとくひしょさんそうとがいはちびょう

【世界遺産委員会の評価】

承徳避暑山荘は、清王朝（1616～1911）の夏の離宮であった。河北省に位置し、1703年に着工され、1792年に竣工した。多くの宮殿や政務、儀式を執り行う建築物からなる巨大な建築群である。建築様式の異なる廟や皇室の庭園が、周囲の湖や牧場、森林に見事に溶け込んでいる。避暑山荘は、その美しさに対する研究価値だけでなく、中国王朝の離宮建築群の姿を残す、数少ない国宝である。

1994年12月16日世界遺産に登録された。

東河北省承徳市の中心より北へ、燕山山脈の奥深くに位置する。1703年に着工し、清朝の皇帝が夏の離宮として用いた。皇帝の宮殿、皇室の庭園、雄大で壮観な寺廟群からなり、中国に現存する最大規模の古代皇帝御苑と皇帝の寺廟群である。

避暑山荘は皇帝が避暑地として政務を行う場所であり、面積5.64㎢を有し、宮殿エリアと庭園エリアに大きく分けられる。

避暑山荘は周囲の約半分が煙びやかな寺院に囲まれており、その総面積は47.2万㎡に達する。かつては11ヵ所の寺院があり、そのうち8ヵ所が清朝政府の理藩院によって管理され、いずれも古北口の外に位置しているため、「外八廟」と呼ばれた。外八廟の建築様式は大きく漢式、チベット式、漢・チベット混合式に分けられる。壮大な規模と精巧な造りを誇っており、保存状態の良い美しい仏像や法器が百万個近く祭られ、チベット仏教の聖地のひとつとなっている。

武当山の古代建築群 ぶとうざんのこだいけんちくぐん

【世界遺産委員会の評価】

武当山古建築のうち、宮闕廟は元（1206～1368年）、明（1368～1644年）、清（1644～1912年）の千年にわたる中国の民間建築と宗教建築の知識と技術を集結して造られた。

1994年12月16日世界遺産に登録された。

湖北省北西部の十堰市に位置し、総面積312㎢を占める。72の山、36の岩、24の谷、11の石窟、10の池、9の高台などからなる名勝は、道教の聖地として有名である。

武当山古建築は壮大で力強く、宮観（道教の社）を中心として、庵堂神祠が四方を取り囲んでいる。これは皇族の宗教建築の典型と言える。

古建築のほかにも、武当山には7400点以上の貴重な文化財が残されている。特に、道教の文化財が有名であるため、「道教文化財センター」と呼ばれている。

また、武当の道教からは、「内気拳」とも呼ばれる武術が生まれ、長い歴史を有する中国武術の一大流派である。

ポタラ宮、大昭寺（ジョカン寺）、羅布林卡（ノルブリンカ）

【世界遺産委員会の評価】

チベット仏教の中心となっているポタラ宮は、華麗な装飾と自然の美を調和することで、チベットの民族特色をよりいっそう引き立たせている。大昭寺は漢族とチベット族を融合するの代表的な建築群である。18世軌こ創建された羅布林卡はダライ・ラマの夏の宮殿であり、宗教芸術の傑作である。

1994年12月16日世界遺産に登録された。

チベット自治区ラサ市西北の標高約3700mの紅山にあるポタラ宮は7世紀のチベット王・ソンツェン・ガムポ（617～650年）時代に創建された。敷地面積41万㎡、建築面積13万㎡、13階建て、高さ117mで、チベット自治区に現存する最大規模で、最も完全な古代チベット族の宮殿式建築群である。

ポタラ宮は歴代ダライ・ラマの冬の宮殿で、白宮と紅宮で構成されている。ポタラ宮にはチベット特有のタンカおよび歴代の文物が収蔵されている。大殿内の壁画もポタラ宮内の見どころである。

ラサ市東南部にある大昭寺（ジョカン寺）は唐・貞観21年（601年）建立した。チベット自治区最古の唐を模した漢族とチベット族のスタイルを結合した木造の建築である。主体建築の経堂大殿は高さ4階で、1階には釈迦牟尼金像、2階にはソンツェン・ガムポや文成公主などの塑像が祀られており、3階は中庭で、4階の真中は4つの金頂である。寺内には数多くの貴重な文化財が保存されている。

ポタラ宮から西側に約2km離れたラサ河畔にある羅布林卡（ノルブリンカ）は西暦18世紀中盤に造営され、歴代ダライ・ラマが政務をつかさどり、宗教活動を行う夏の宮殿である。桑頗章、金色頗章、達旦明久頗章を一体化したチベット自治区最大規模、最も美しい庭園である。主要殿堂の壁に精美な壁画が描かれている。ここには数多くの貴重な文化財や典籍が収蔵されている

廬山国家公園 ろざんこっかこうえん

【世界遺産委員会の評価】

江西省産山は中華文明発祥の地の一つである。この一帯の仏教寺院、道教の廟観、理学思想を表す白鹿洞書院は独特な形で素晴らしい自然と融合し、美的価値また中華民族の精神と文化的生活が密接に結びついた文化的景観を生み出している。

1996年12月6日世界遺産に登録された。

廬山国家公園は江西省北部の九江市の南に位置する。東は鄱陽湖に接し、南は滕王閣に面しており、「断崖絶壁、雲海、瀑布」という三つの景観が有名である。

同公園内では河、湖、山が一体となっており、世界的に名の知れた避暑地でもある。風景、宗教、教育、文化が集まった名山でもある。

廬山国家公園には、滝、山、植物、地質、河川、湖、文化、別荘建築など8種類の景観がある。総面積は302㎢、山岳面積は282㎢、主峰の大湧陽は標高1474mで、「春は瑞々しく、夏は青々と、秋は魅惑的で、冬は美しい」という表現は、廬山の風景を最もよく映し出している。麓にある鄱陽湖の野鳥保護区で見られる白鶴は世界の総数の95%を占め、世界一の群れを誇る。

庭山は宗教の聖地としても有名である。庭山では4世紀から宗教が盛んで、寺院、廟、道観（道教の寺院）などが多い時で500ヵ所余りに達した。山頂には現在でも仏教、道教、イスラム教、カトリックなどの宗教や宗派の寺院、廟、教会などがあり、5種類の宗教が共存するという珍しい現象が見られる。

白鹿洞書院は廬山の五老峰南麓の後屏山山麓にある。中国古代の四大書院の雄であり、中国近代の700年にわたる宋学の趨勢を表している。

廬山には長い文化的歴史があり、ここから中国の山水詩が多く生まれている。東晋（317～420年）の陶淵明（365～427年頃）、劉宋（420～479年）謝霊運（385～433年）以来、多くの文化人が廬山に上り、生活しながら、詩を作ってきた。

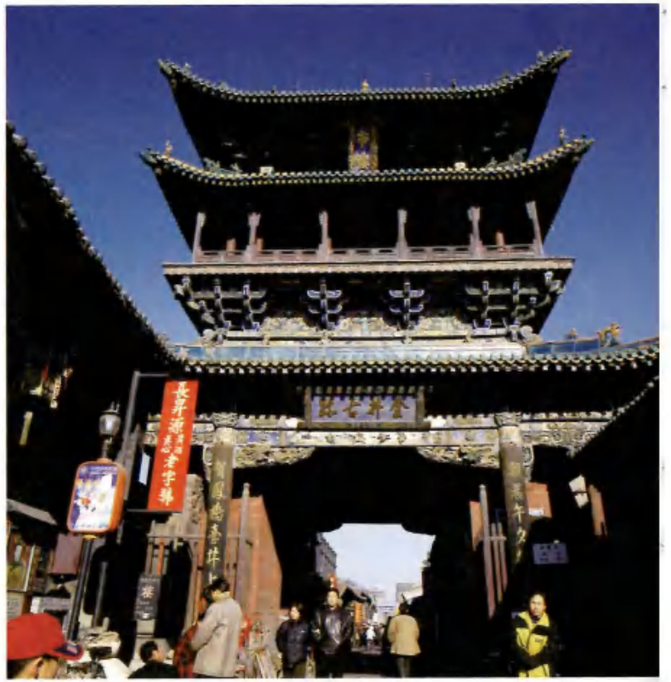
平遥古城 へいようこじょう

【世界遺産委員会の評価】

平遥の古城は中国国内で保存状態の最も優れた古城であり、明～清朝（1368～1911年）漢民族の都市象徴である。中国史上、文化、社会、経済、宗教が非常に発展した時代を示す芸術作品である。

1997年12月3日世界遺産に登録された。

山西省中部に位置し、2700年余りの歴史、文化を有する古城である。総面積は2.25㎢で、城壁、大通り、商店、廟、民家などにより巨大な建築群が形成されている。中国に現存する保存状態の良い明～清朝（1368～1911年）の古城であり、「地上の博物館」と呼ばれている。平遥を語るなら、山西商人（晋商）、中国の金融機関の元祖や初期型の銀行などを見ないわけにはいかない。中国初の銀行「日昇昌」は平遥で誕生し、初めて発行した手形が当時の中国で有名である。



麗江古城 れいこうこじょう

【世界遺産委員会の評価】

麗江古城は経済的及び戦略的な要地でありつつ険しい地勢に築かれた巧妙なバランスを取った地である。その素朴な風貌を正確かつ完全に保存し、再現している。無数の王朝の興亡に耐えた建築は歴史を積み重ね、各民族の文化的特色が溶け込んでいることがよく知られている。麗江には昔の給水システムがあり、巧妙で独特な給水システムが縦横に走り、現在も活躍している。

1997年12月4日世界遺産に登録された。

麗江古城は中国西南部、雲南省麗江市麗江壩中部に位置し、大研鎮とも呼ばれる。中国で最も完全に保護されている四大古城の一つであると同時に、中国の歴史的文化名城の中で唯一城壁がなく、最も民族的な特色を備えた古城である。13世紀後半に創建された麗江城は雲貴高原にあり、標高2400m余、面積に3.8㎢に及び、現在人口は2万5千人で、ナシ族が圧倒的に多い。

中国の国家クラスの歴史的文化名城として、麗江は東巴（トンパ）文化とナシ族の古楽を完全に保護し、発展させている。東巴（トンパ）文化はナシ族の伝統文化で、東巴（トンパ）文字は現在、世界で唯一の「生きた象形文字」とされる。ナシ古楽はナシ族の人々の間で受け継がれてきた古代音楽を指し、唐代（618～907年）、明代（1368～1644年）など古代の国内外の歌詞、歌曲を含み、「活きている音楽博物館」と賞賛されている。

蘇州の古典庭園 そしゅうのこてんていえん

【世界遺産委員会の評価】

史上有名な都であった蘇州の庭園以上に、中国の古典庭園の理想的な造型美を表現している庭園はない。小さな空間に易の世界を作り出している。蘇州の庭園はこのような思想を作り出している典型として認められている。

これらの16～18世紀に作られた庭園は、その精緻な設計によって、自然を巧みに利用し、細部にまでこだわり、趣味の世界を表現している。

拙政園、留園、網師園、環秀山荘は1997年12月4日、滄浪亭、獅子林、耦園、芸園、退思園は2000年11月30日世界遺産に登録された。

江蘇省蘇州市に位置し、紀元前6世紀頃に建造され、16～18世紀に最盛期を迎える。記録によると、当時の庭園は200ヵ所以上に達したという。現存する数十ヵ所の園林のうち、拙政園、留園、網師園、環秀山荘は明・清（1368～1911年）に作られた江南地方の民俗建築の代表作である。

蘇州の庭園は、小さいながらも精巧で、自由、繊細、上品、写意（中国画の手法の一つ）に優れている。また、庭園や建物が融合し、見てよし、遊んでよし、住んでよしという空間である。園林庁堂の命名、額、書条石（文字が彫られた石）、彫刻、装飾などは、庭園に趣を与えたとともに、味わい深い趣味の世界を表現している。

天壇 てんだん

【世界遺産委員会の評価】

天壇は15世紀の前半に建てられた、皇室の庭園である。周りは古松に囲まれていて、良好な状態で保存された壇廟の建築群である。全体の配置から一つ一つの建築まで、すべて天地という考え方の下で建てられ、この天地関係は中国の古代の世界観において中心的な位置を占めている。

1998年12月2日世界遺産に登録された。

北京市街の東南部に位置し、明代の永楽18年（1420年）に作られ、明代の嘉靖（1522～1566年）、清代の乾隆（1736～1795年）などの時期に増築、改築された。占有面積は273万㎡。

天壇には二重の壁があり、建物の配置は「回」の字形を呈している。二重の壇壁は北が丸、南が四角になっていて、「天は丸い、地は四角」ということを象徴している。圜丘壇は中国古代石造建物の傑作で、皇帝が天を祀り、雨乞いの行事を行う所であった。文葉音色石で3層円形の石台を敷き、高さは5m、3層のひさしは階を追うごとに上を向き、傘状を呈して、青い瓦、赤い柱などの極彩色の美に輝いている。

頤和園 いわえん

【世界遺産委員会の評価】

北京頤和園は1750年に造られたが、1860年戦火で激しく破壊され、1886年に修復を行った。亭台、回廊、殿堂、廟宇、小橋などと自然な山並み、広い湖面が互いに調和し、芸術的に一体となって、中国の庭園風景設計の傑作と称されている。

1998年12月2日世界遺産に登録された。

北京市の西山麓に位置し、元の名前は清漪園という。清朝の乾隆15年（1750年）に造られ、占有面積は2.97㎢。清朝（1616～1911年）皇帝が政務を司った御所、避暑、遊興の御苑であり、中国における最も完全な皇室庭園で、皇室の園林建築博物館と称される。主要な観光地区は重厚かつ威厳ある政治活動区を代表する仁寿殿、生活区を代表する楽寿堂、玉潤堂、宣芸館、風景遊覧区を代表する万寿山、昆明湖に分けられる。

頤和園全体の高度は、「人によって造られたものながら、まるで神が創ったもの」と造園基準を現している。

大足石刻 だいそくせっこく

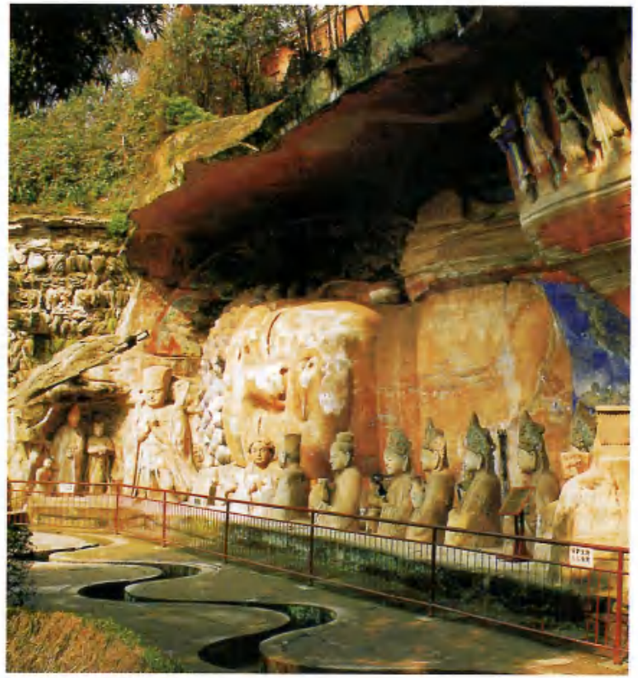
【世界遺産委員会の評価】

大足地区にある険しい断崖に切り開かれた貴重な石刻群は9世紀から13世紀までに刻まれた。石刻は芸術性が高く、精巧で美しく、形の豊富さで世に知られており、世俗から宗教まで、いずれもその時期の仏教、道教、儒家思想の調和的な考え方を十分に表現している。

1998年12月2日世界遺産に登録された。

摩崖像芸術の大足石刻は大足県にあり、9世紀から13世紀中期まで延々と彫り続けられた。現存の摩崖彫刻は5万数像、銘文は10万余り、100ヵ所余りに分布し、規模が大きく、彫刻が精美、形が多様、内容が豊富、保存状態が完全であることで世界に知られている。

大足の石刻は主に仏教を体裁とし、道教、儒学の像も作られ、一部は宗教的制約を破って、像に人間性が現れている。石刻の中に、数え切れないほどの各階層の人物像があるほか、数多くの社会生活の場面が現れ、石刻芸術が生活を反映した代表的なものである。そのうち、規模が最大なのは北山石刻と宝頂石刻で、唐末期以降の石窟の代表作である。



世界文化遺産

青城山と都江堰 せいじょうざんとこうえん

【世界遺産委員会の評価】

青城山は道教発祥地の一つで、道教の名山として知られている。唐代（619～907年）に建てられた建福宮は規模がかなり大きく、現存の殿宇は清（1616～1911年）の末期に建てられ、規模が最大で、彫刻が繊細であり、中にはまだ数多くの貴重な文化財と古木がある。

紀元前3世紀に建設された、四川省成都平原西部の岷江にある都江堰は、世界でも年代が最も古い水利施設である。2200年余りが経っても都江堰は今もなお機能し続けている水利施設である。

2000年11月29日世界遺産に登録された。

青城山は四川省都江堰市の西南にあり、成都平原に面している。原始林は四季を通して青々とし、緑の木々が山全体を覆っていて、環状の連峰は城郭のように見えるため、青城山の名がついた。

ここは、「青城、天下に幽たり」と称えられる通りの独特な景観を成している。

青城山の主峰の老零頂は標高1600mある。景勝地内に36の峰、8の大洞窟、108の観光スポットがある。

四川省都江堰市の西にある都江堰は「独奇千古」（千古にも独特な水利施設）の「鎮川之宝」（四川を治める宝）と称えられている。都江堰は紀元前3世紀に建設が始められた。秦の昭襄王の51年（紀元前256年）から、当時の蜀郡の太守（地方長官）李氷と息子が、民衆を率いて、この大型水利工事に着手した。都江堰は世界水利施設の中で最も古い施設であり、また、現存する唯一の、ダムを造らず分水する「魚嘴」、土砂を灌江から排出する「飛沙堰」、灌江の水を運河へ導水する「宝瓶口」という3つの堤防状構造物からなる規模がかなり大きな水利施設である。宝瓶口の自然風景は美しいため、「離堆鎮峡」と称され、有名な蜀の歴史的な観光スポットである。

龍門石窟 りゅうもんせっくつ

【世界遺産委員会の評価】

龍門地域の石窟や仏龕などには、北魏の晩期から唐代（493～907年）に栄えていた芸術様式が現れている。仏教における宗教をモチーフにしたこれらの芸術作品は、中国の石造芸術の最高峰と言える。

2000年11月30日世界遺産に登録された。

河南省洛陽市から南に13kmの場所にあり、北魏の孝文帝時代（471～499年）に掘削が始められ、400年以上を経て完成した。甘粛省の敦煌石窟、山西省の雲崗石窟とともに、中国三大石造芸術の国宝に数えられる。

龍門石窟は水辺に近く、東西を山に挟まれた断崖絶壁に分布しており、南北に1kmにわたって見られる。10万体余りの仏像が現存しており、最大で高さ17.14m、最小のものはわずか2cmである。石窟内には仏龕が2300カ所以上、題辞や碑文が刻まれたものが2680点以上あり、世界最大の石窟と呼ばれている。

龍門石窟は石造芸術博物館と呼ぶにふさわしく、特に賓陽中洞、奉先寺、万悌洞、古陽洞などが代表的である。

安徽省南部の古村落：西遞、宏村 あんきしょうなんぶのこそんらく：せいてい、こうそん

【世界遺産委員会の評価】

西遞、宏村という二つの伝統的な古村落は、ほとんどの部分が19世紀の中国古代農村の面影を残している。道教の様式や旧建築、給水システムなどが整備された住居群は、個性強いの重要な文化財である。

2000年11月30日世界遺産に登録された。

西遞は黄山市黟県の県城から8km離れており、北宋の皇祐年間（1049～1053年）に建設され、900年以上の歴史がある。「中国明清民家博物館」と呼ばれている。

西遞村落は船形をしており、四方を山に囲まれ、2本の渓流が村の中を通過して流れていく。村落の道は水に面して建設されており、石畳になっている。民家はどれも豪華で、庭も繊細に作られており、「配置の技、構造の妙、装飾の美、建築の髄」は、中国国内の旧民家でも他に見られない。

宏村は黟県の県城から北東10km地点に位置し、南宋の紹興元年（1131年）に建設され、高い所から見ると、宏村は山の前の渓谷に寝そべっている牛のように見える。村落には旧民家の白壁や瓦が整然と並んで見える。

さらに、聳える古木や、民家の藤の老木や庭の牡丹など、少しずつその絵のような情景にひきこまれる。また、この土地は一年を通して霧に覆われることが多く、名実ともに「水墨画の世界」である。

明・清王朝の皇帝陵墓群 みん、しんおうちょうのこうていりょうぼぐん

【世界遺産委員会の評価】

明・清時代の皇室陵墓は風水の理論によって、入念に土地を選び、数多くの建築物を地下に配置している。500年以上も続いた中国王朝の権力を物語っている。

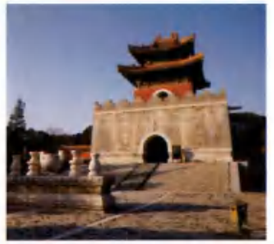
明の顕陵、清の東陵、西陵は2000年11月30日、明の孝陵、十三陵は2003年7月3日、盛京三陵は2004年7月1日世界遺産に登録された。

明（1368～1644年）清（1616～1911年）二朝代の皇帝陵墓の建築群は、明孝陵（みんこうりょう）、明十三陵、盛京三陵、清東陵、清西陵を含めて、主な建物は完全な状態で保存されており、明清皇室陵墓の元の姿を残している。

明・清の時代は陵墓建築史において輝かしい時期といえる。

明朝を建国した皇帝朱元璋（1328－1398年）が陵墓の制度に対して重大な改革を行った。彼は地上の土の山をもって、以前のバケツ形を四角形あるいは長円形に変え、また寝宮殿をやめ、祭殿の建物を拡大して、明・清代の皇帝陵墓の制度を創設した。彼が没した後、江蘇省南京市東郊外の明孝陵に埋葬された。

清朝は明朝の制度を踏襲し、さらに陵墓と自然環境の調和を重視した。また皇后と妃嬪の陵墓の配置序列を決めるなど、祭祀制度も改善した。



雲崗石窟 うんこうせっくつ

【世界遺産委員会の評価】

西山西省大同市に位置する雲崗石窟は、洞窟で造られた仏壇が252あり、51000体以上の仏像がある。5～6世紀の中国の石窟を利用した仏教芸術の傑作である。中でも、曇曜五窟は、中国の仏教芸術が最初に繁栄した頃の傑作である。

2001年12月1日世界遺産に登録された。

山西省大同市に位置し、北魏の和平元年（460年）に建造され、1500年以上の歴史がある。敦煌莫高窟、洛陽龍門石窟とともに、「中国三大石窟群」と呼ばれている。中国の重要文化財で、最高ランクの観光スポットである。

雲崗石窟は掘削の時期によって、前期、中期、後期に分けられ、それぞれ石窟様式が異なる。

石窟群の中には、生き生きとした人物像や、様々な様式の建築物の彫刻がある。傑出し、熟練した技術の仏像彫刻をテーマに、デザインに優れ、美しく精巧な装飾や琴、笛、琵琶など中国古代石窟は中国の秦・漢時代の芸術の優れた伝統を受け継ぎながら、インド仏教芸術を吸収して、「雲崗モデル」を形成し、中国仏教芸術の転換期となった。

高句麗王城、王陵及び貴族の古墳 こうくりおうじょう、おうりょうおよびきぞくのこふん

【世界遺産委員会の評価】

この史跡には、五女山城、国内城、丸都山城という古城や40以上の古墳が含まれている。その中の14の古墳が王陵で、残りの26の古墳が貴族の墓である。これらは高句麗文化に属する。

丸都山城にもかつては高句麗の都が置かれ、現在でも大規模な宮殿や37の古墳など多くの歴史的遺構が残っている。一部の古墳には、上方の石や地面の基礎を支えるための梁のない丸天井がある。

主に吉林省通化集安市と遼寧省本溪市桓仁県に分布している。高句麗は前漢（紀元前206～25年）から隋、唐（581～907年）まで、中国北東部に現れた多大な影響力を持った辺境民族で、その活動地域には五女山城、国内城、丸都山城など数多くの遺跡が残されている。

五女山城は高句麗王朝の最初の都で、広大な整ったシステムを有し、保存状態も比較的良好である。

国内城、丸都山城は高句麗王朝早期～中期（1～5世紀）の都で、最も長い間、都として使った場所である。

国内城と丸都山城の城外には洞溝古墳群がある。古墳群は武士墓地、大王陵が代表的で、十数個の大規模な高句麗王陵や壁画が書かれた大量の王室貴族の墓が現存している。群人墓地はピラミッド型をしており、正方形の錐壇状の石室を有しており、石で建造された高句麗王朝晩期の典型である。太王陵は、高句麗王朝の第19代の王、好太王の墓であり、規模も大きく、その東側には好大王碑があり、漢字で碑文が刻まれている。現在まで残っている高句麗王朝の文献資料の中では、一番長いものである。これらの史跡は、高句麗王朝の他に代え難い歴史的物証であり、貴重な歴史文化価値を有するものである。

マカオ（澳門）旧市街

まかお（おうもん）きゅうしがい

【世界遺産委員会の評価】

澳門（マカオ）は重要な国際貿易港として、16世紀にポルトガルによる植民地支配が始まり、1999年になって中国に返還された。残存する古い街道、地域、ポルトガル式や中国式の建築物によって、澳門は東西の文化、建築物、科学技術が行き交っていた時代の証人となっている。これらの史跡の中には、要塞や中国最古の灯台がそびえ立っている。

2005年7月15日世界遺産に登録された。

澳門の世界遺産エリアは旧市街地を中心にして、隣接する広場や大通りが連なるように形成されている。

ここは中国で最古、最大規模の、保存状態のよい、中国と西洋の特徴を有する建築物が多く集まり、共存する歴史建築エリアである。これは、400年以上にわたる中国と西洋文化との交流の結晶である。

澳門の旧市街では、多様な宗教文化が栄え、カトリック、プロテスタント、仏教、道教、媽祖などが今なお現存している。大三巴牌坊は東西の宗教が互いに融合した最高傑作である。

殷墟

いんきょ

【世界遺産委員会の評価】

殷墟遺跡は中国初期の文化や工芸、科学の黄金時代を表し、中国の青銅器文化が最も繁栄した時期でもある。殷墟遺跡からは王室陵墓、宮殿跡などが発掘されている。出土した精巧な大量の甲骨に書かれた文字は、中国古代の信仰や社会制度、世界最古の文字体系と言われる漢字の発展を明らかとするもので、計り知れない価値を持っている。

2006年7月13日世界遺産に登録された。

河南省安陽市の北西にある小屯村一帯に位置し、世界的に有名な中国の殷（商）王朝後期（紀元前1300～前1046年）の遺跡である。また、中国歴史上文献が残っており、甲骨文や発掘資料によって証明された最古の都城遺構でもある。殷墟は24ｋ㎡ほどの敷地を占め、宮殿・宗廟区、王陵区、庶民の集落跡、墓地、甲骨を埋めた穴、青銅を鋳造所、玉や甲骨を作っていた工房など多くの遺構が現存している。その中でも、宮殿・宗廟遺構と王陵遺構が中心である。

開平の望楼と村落

かいへいのぼうろうとそんらく

【世界遺産委員会の評価】

開平の望楼と村落は世界でも最も美しい村落の一つであり、中国と西洋の異なる文化を融合した芸術作品といえ、このような歴史文化遺跡は世界で唯一無二である。

2007年6月28日世界遺産に登録された。

広東省開平はさまざまな望楼が建てられた村落で世界にその名をよく知られている。これらの望楼は、清王朝（1616～1911年）に建設され、防御、住居、中国の伝統的建築と西洋の現代建築芸術を融合した多層塔建築である。

開平の望楼と村落群は、中国の華僑の歴史、社会形態および文化伝統を表現する独特な建築群である。中国様式を守りながらも西欧文化に深く影響されたといえる望楼は海外から帰国した者によって建てられ、最盛期には3000棟以上に及んだ。

福建土楼

ふっけんどろう

【世界遺産委員会の評価】

福建土楼は、世界で類を見ない居住地域と防御機能が一体となった山岳民家建築である。その形や様式はこの地に根付いた儒教の伝統的なパワーの表れ、外敵への防御という現実的な必要性によるものである。また、土楼は山や川だけでなく、空や土地とも融合しており、まさに人類の民家の傑作である。

2008年7月6日世界遺産に登録された。

福建土楼は主に福建省西部と南部の険しい山脈に点在し、独特の建築スタイルと長い歴史を誇る文化財である。

宋、元（960～1368年）時期に見られ始めた福建土楼は、世界でも類を見ない土を用いて大規模な山岳民家建築である。土楼のデザインは様々で、円楼、方楼、五鳳楼、凹字型、半円型、八卦型に分けられる。中でも円楼と方楼が多く見られる。簡単な幾何学模様の建築物で、険しい峡谷に建てられ、周囲の自然景観と強烈に対比しつつも、一体となっている。

五台山 ごだいさん

【世界遺産委員会の評価】

頂上部が平らな台状である5つの山峰によって構成されている。漢伝仏教とチベット仏教との唯一の共通の仏教聖地である。山中には53の寺院が盤上の棋石のようにびっしりと分布している。仏教建築が集中する場所として、この世界遺産は千余年前の仏教の発展過程を示すだけではなく、中国の宮殿建築に大きな影響を与えてきた。

2009年6月26日世界遺産に登録された。

五台山は世界五大仏教聖地の一つであり、中国の四大仏教の名山のトップの地位にある。山西省東北部に位置し、東、南、西、北、中の五つの山峰に囲まれ、峰頂が平坦で広く、あたかも土台のようなので、五台山と名づけられた。

悠久な歴史を持つ五台山には寺院が林立し、数多くの貴重な古代建築、彫塑、壁画などの文化財が保存されている。早くも後漢の永平11年（68年）から建設が始まり、ここは国内唯一の青廟（漢族仏教）と黄廟（チベット仏教）が山に共存して、法を説く法道場である。紀元4世紀から19世紀までの北魏、唐、宋、元など七つの朝代の寺院建築47カ所が保存され、七つの朝代の彩塑、五つの朝代の壁画などが集まっている。南禅寺は現存する世界最古の木構造建築の一つである。

五台山風景区には山々が重なり合い、樹木が生い茂り、夏になると花が咲き乱れるが、山頂の氷は千年も融けない。景色が素晴らしく、気候も爽やかなため、古来より名高い避暑地となっている。

「天地之中」歴史建築群 「てんちのなか」れきしけんちくぐん

【世界遺産委員会の評価】

「天地之中」歴史建築群（嵩山歴史建築群とも呼ばれる）は河南省鄭州市登封嵩山（すうざん）の山岳にある。最高峰は太室山の標高1440m。嵩山三闕銘（すうざんさんけつめい）と中岳廟、嵩岳寺塔、少林寺建築群（常住院、初祖庵、塔林）、会善寺、嵩陽書院、観星台など、漢、魏、唐、宋、元、明、清時代に建てられた8ケ所11件の歴史的建築物が世界遺産となった。

2010年8月1日世界遺産に登録された。

嵩山は「五岳」の中心としてそこにそびえ、天地の中心に位置する聖なる山として、古くから仏教、儒教、道教などの宗教的な建造物群が多く作られるとともに、学術・教育に関する施設も形成されてきた。

嵩山三闕銘が漢時代のもので、隷書が公式書体であった漢代にあって、極めて珍しい家書による金石文である。

中岳廟は太室山南麓の黄蓋峰にあって、現存する中国五岳の中で規模が最大で、完全に保存された歴史的建築群である。

嵩岳寺塔は嵩山南麓に位置し、北魏孝明帝正光年間（520～525年）に建てられた、中国で現存する最も古いレンガの塔である。

少林寺常住院は五乳峰に位置し、北魏太和19年（495年）孝文帝期に建造された。院内に明、清時代の建物が沢山残されている。

少林寺初祖庵は宋時代の少林寺僧侶が仏教禅宗の開祖、菩提達磨を記念するために建造した建物で、庵内には宋、金以降の碑碣が40余りある。

少林寺塔林は少林寺院の西にあり、少林寺歴代高僧の墓地である。塔林には唐、五代、宋、金、元、明、清7時代の古塔228あり、そのうち単層単檐塔、単層密檐塔、印度奉堵波塔と各種蜘蛛式塔がある。

会善寺はもともと北魏孝文帝が建造した離宮で、魏が滅亡した後に寺となった。隋代開皇5年（585年）に嵩岳寺という名に改名され後、隋文帝が会善寺という名を賜った。現在、寺には常住院、戒壇遺跡、古塔、碑碣がある。

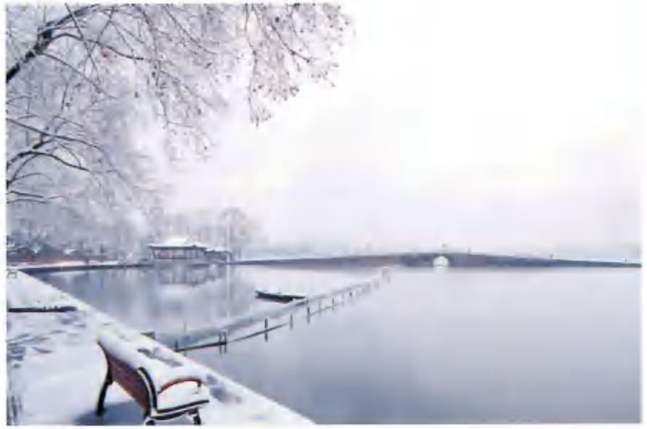
嵩陽書院は河南睢（スイ）陽書院（応天書院も呼ばれる）、湖南岳麓書院、江西白鹿洞書院とともに中国四大書院と称される。

観星台は元世祖至元13年～16年（1267～1269年）に建てられ、中国で最も古い天文台であり、世界的にも天体観測する最古の建築物の一つである。

杭州西湖の文化的景観 こうしゅうせいこのぶんかてきけいかん

【世界遺産委員会の評価】

「杭州西湖の文化的景観」は、傑出した典型的な文化景観で、景観に対する中国の美学思想を明確に反映し、中国だけでなく世界の庭園設計に大きな影響を与えた。



2011年6月世界遺産に登録された。

杭州西湖の文化的景観は、中国浙江省の省都杭州市内の西に位置し、周囲が15kmで、北、西、南の三方が山に囲まれ、東だけが杭州市街と接している。西湖と丘陵にひろがった、堤や湖心亭などの人工な島々、数多くの寺院群、仏塔群、東屋群、庭園群、柳などの観賞用の木々が織りなす美しい景観は、9世紀以降、白居易や蘇東坡（蘇軾）などの有名な詩人、学者、芸術家を魅了した。

西湖の自然の島である孤山、西湖を分ける堤の蘇堤、白堤、楊公堤、人工的に作られた島である小瀛洲、湖心亭、阮公墩、分けられた湖の外湖、西里湖、北里湖、南湖、岳湖、これらをまとめて形状を「一山、三堤、三島、五湖」と称される。2006年に、中国の国家AAAAA級観光景区に指定された。この文化的景観は、杭州市内の西から長江の南に至る一帯の景観のみならず、何世紀にもわたって、日本や韓国の庭園設計にも影響を与えた。霊隠寺、六和塔などの景観を含んだ杭州西湖の文化的景観は、人と自然の理想的な融合を表現するという、庭園造成の文化的な伝統を、今につたえる貴重な事例である。

元時代上都の遺跡
げんじだいじょうとのいせき

【世界遺産委員会の評価】

元時代上都の遺跡は1256年にフビライの幕僚の劉秉忠氏（漢民族）が、伝統的な漢民族の風水理論に基づいて都を設計し、背面を山に都の近くには河川が流れる建築方法である。その発想はモンゴル族遊牧文化と漢民族農耕文化の融和である。また、大理石で出来た宮殿があり、建物の内部はみな金で塗られ、鳥獣花木の絵が描かれるなど工芸や技術の粋を尽くした装飾がなされている。その姿は、ヨーロッパ人の想像力に影響を与えた。

2012年6月29日世界遺産に登録された。

元時代上都は、万里の長城の北に位置し、25000万㎡以上の総面積を持ち、フビライは元時代上都を拠点として、百年の間、元朝を創立し中国に君臨した。

元時代上都はほぼ正方形に近い形状をしており、東涼亭と西涼亭という狩猟用の行宮も存在している。

現在は元時代上都の遺跡の中に宮城の各宮殿の基壇や、古墳、宿営地並びに鉄幡竿の人工水路、内城の東の城壁の一部などが古代の遺跡が多く残されている。

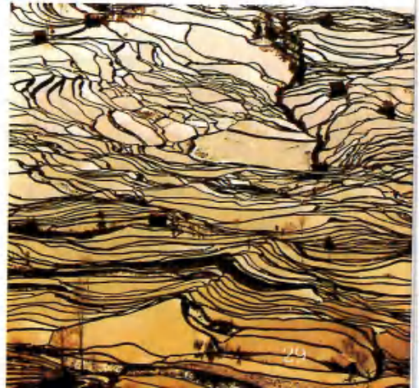
紅河ハニ棚田
こうがはにたなだ

【世界遺産委員会の評価】

紅河のハニ族の棚田文化景観を表す森林、水系、棚田と村「四ヶ要素の相互依存」のシステムは世界遺産の基準に一致している。奥深い農業、林業と水分配システムを完全に反映し、連動している。また、ユニークなシステムは現地の社会経済宗教の連携を強化し、人間と環境の重要なモデルとの相互作用を強調している。

2013年6月22日世界遺産に登録された。

紅河ハニ棚田は、中国雲両省紅河ハニ族イ族自治州内に広がる棚田群。紅河南岸の哀牢山中にあり、元陽県を中心に紅河県・緑春県、金平県など複数の県に及ぶ。総面積約54000万㎡で、最大標高1800m、最大勾配75度の斜面にまで築かれている。この地に移住してきたハニ族の人々が8世紀頃から営々ととつくり広げてきた。



シルクロード 長安～天山回廊の交易路網

ちょうあん～てんざんかいろうのこうえきろもう

【世界遺産委員会の評価】

シルクロードのうち、中国の22遺跡、カザフスタンの8遺跡、キルギスの3遺跡を対象としており、経済的・文化的な交流に貢献したことなどが評価された。

2014年6月22日世界遺産に登録された。

シルクロードの始まりは紀元前2世紀にさかのぼる。シルクロードは古代から東西方の政治、経済、思想、文化を結ぶ重要な活力ある道として栄える。ユネスコの世界遺産に登録されたシルクロードは中国の古都長安（現在の西安）や洛陽から敦煌を経て中央アジアに至る「天山回廊の道路網」で、5000kmの遺跡群、仏教の石窟寺院や宮殿など計33ヵ所のうち、22ヵ所が中国に存在している。

大運河

だいうんが

【世界遺産委員会の評価】

「大運河」は、中国史において万里の長城と双璧をなす大規模土木事業とも位置づけられる。戦国時代から部分的に建設されていたが、大きく整ったのは隋の時代で、以降の王朝によっても整えられた。ICOMOS からはその顕著な普遍的価値を評価された。

2014年6月22日世界遺産に登録された。

大運河は京杭大運河も称され、世界で一番古く、長い人工運河である。杭大運河の総延長は約1794kmで、今回、世界文化遺産として登録された大運河の全長は1011kmである。大運河は北京、天津、河北、河南、山東、安徽、江蘇、浙江の6省2市を通って、海河、黄河、淮河、揚子江、錢塘江五大水系と合流して、両岸の関連遺跡は58ヵ所もある。

土司遺跡群

どしいせきぐん

【世界遺産委員会の評価】

土司制度は、少数民族が独自の習慣や生活様式を保持することを許容しながらも国家の統治のあり方を統合することを目的とした制度である。中国南西部の少数民族の伝統的統治に関する例証として評価された。

2014年6月22日世界遺産に登録された。

土司遺跡は、中国古代の土司制度の遺跡。土司は、古代の中国王朝が周縁の部族の首長に授けた官職で、中国の皇帝が中南部や南西部の少数民族を統治するために採用された古代の政治制度である。土司遺跡の構成資産として、永順老司城遺跡、唐崖土司城遺跡、播州海竜屯の３件が登録されている。

左江花山の岩絵の文化的景観

さこうかざんのいわえのぶんかてきけいかん

【世界遺産委員会の評価】

花山岩画は紀元前5世紀から2世紀にかけての岩絵遺跡で、今なお象徴的意味を持つ銅鼓が描かれていることは、その文化的広まりを理解する上で評価された。

2014年6月22日世界遺産に登録された。

左江花山の岩絵の文化的景観は、中国南部の広西チワン族自治区に残る、700年以上に渡ってカルスト地形の断崖壁面に描かれた大規模な岩絵群を含む文化的景観である。

花山岩画は紀元前5世紀から2世紀にかけての岩絵遺跡で、左江沿岸にいた駱越族の日常生活と労働状況を描いている。左江花山の岩絵はまさに駱越文化のシンボル的な遺産である。

鼓浪嶼 ころうしょ

【世界遺産委員会の評価】

鼓浪嶼に中国、東南アジア、ヨーロッパの建築様式が混ざり合っただけでなく、アモイ・デコ様式発祥の地として、それを体現した優れた建築物群が残る。そうした点を評価された。

2017年7月7日世界遺産に登録された。

鼓浪嶼は、福建省厦門市にある島。現地で話される閩南語の発音に基づいてコロンス島とも呼ばれる。かつて租界が置かれており、他国の影響も受けつつ独自の建築文化を発達させたことが評価され、2017 年に世界遺産リストに登録された。

九寨溝 きゅうさいこう

【世界遺産委員会の評価】

九寨溝は四川省北部に位置し、720㎢以上にわたって連綿と連なっている。、狭くて長い曲折の九寨溝の標高は4800mにもなり、異る生態システムが形成された。溝の中で140種類以上の鳥や多くの絶滅に瀕する動植物が生息しており、その中にはパンダ、四川のターキンなども含まれている。

1992年12月14日世界遺産に登録された。

九寨溝は中国唯一の高山湖群、滝群とカルシウム灘流を主とする自然保護区である。九寨溝の景色は色とりどりで美しく、独特かつ非常に不思議なことから、「童話の世界」と賞賛される。

九寨溝が最も美しいのは水である。滝の高さはまちまちであり、重なり合って、湖の大きさは一様ではなく、青緑に清く澄んで、水の中で影が逆さに映っている。紅葉、緑の木、雪の峰、青空、一歩は一色、進むごとに風景も変わり、激しい変化は尽きることがない。水は木の間で流れて、木は水の中で成長し、美しさのあまり「九寨溝から帰ると他の景色を見たくなくなる」と言われるほどである。

それ以外に、九寨溝の内ではパンダ、キンシコウなど多くの貴重な動物が生息している。また、民俗風情と風習も独特で魅力に富んでいる。

黄龍 こうりゅう

【世界遺産委員会の評価】

黄龍の風景名勝は四川省西北部に位置し、多くの雪峰と中国の最東部の氷河によって構成された谷である。ここで人々は高山の景観と異なるさまざまな森林生態システムや、壮観な石灰岩の構造、滝と温泉を探し当てることができる。この地区はまた、絶滅に瀕する多くの動物が生存しており、その中にはパンダと金糸猴（キンシコウ）も含まれている。

1992年12月14日世界遺産に登録された。

四川省阿壩チベット族チャン族自治区州松藩県の境界内に位置して、その景観が一匹の金色の巨大な龍のようであるため、その名がついた。総面積は約700㎢で、彩池、雪山、渓谷、森林という「四絶」は世界に知られていて、中国で唯一、非常に良い状態で保護された高原湿地となっている。

ここでは約8万ヵ所の金色石灰岩の灘流が、密林の中を静かに流れている。最も有名な金沙浜の全長は2500mで、幅は30m～1170m。きらきらと透明な渓水は黄金色の石灰華岩の上から流れて、最も美しく多彩で豊富な石灰岩層の景観である。

それ以外に、黄龍はまた多くのカルスト滝と鍾乳洞が至る所にあり、その内には、世界最大な石灰岩洞窟「洗身洞」もある。

武陵源 ぶりょうげん

【世界遺産委員会の評価】

武陵源の景色は美しく壮観で、最も独特な景観は3000数本の細く尖った砂岩柱と砂岩峰で、それらの大部分は200mほどの高さがある。山の峰と峰の間には渓谷が縦横に続き、渓流、池と滝などが随所に見られ、観光地区内には40余り石穴と2基天然の巨大な石橋もある。人を魅了する自然景観である。

1992年12月14日世界遺産に登録された。

地殻変動によって生まれた3000本以上の石柱がそそり立つ張家界国家森林公園は、最も早く森林公園に指定された地域である。開発も3つの区域の中で一番進んでおり、標高1200mの黄石寨（こうせきさい）山頂へもロープウェイが整備されているので、気軽に観光を楽しむことができる。また、天子山自然保護区にある350mの高さで二つの峰をつなぐ天然の石橋「天下第一橋」のある袁家界（えんかかい）には、高さ326mの屋外エレベーターも設置されている。

三江併流 さんこうへいりゅう

【世界遺産委員会の評価】

三江併流の自然景観は雲南省西北部の高山と険しい峰の中に位置し、14の保護された地域からなり、面積は17000km²。長江（金沙江）、メコン川（瀾滄江）とサルウイン川（怒江）の三本の大河の上流部はこの地区内を並行して勢いよく流れ、ここは生物の種類が最も多い地区で、世界の中でも温帯生物の種類が最も豊かな地区である。

2003年7月2日世界遺産に登録された。

雲南省境界内の金沙江、瀾滄江と怒江の三本の大河は「水が並行に流れているのに、合流することのない」という自然な地理景観のことである。

「三江併流」地区は世界で最も豊富な地質と地形の博物館であり、そこに118の標高5000m以上の雪山、万年氷河、数多く広く分布している氷蝕湖、状態が最も整っている丹霞の地形がある。それだけではなく、生態景観の種類、生物の多様性が世界で最も豊かな地区の一つでもある。その上、多民族、異なる文化および信仰が調和され、共存している地区でもある。

四川省のパンダ生息地 しせんしょうのぱんだせいそくち

【世界遺産委員会の評価】

四川省パンダ生息地に世界中の30%以上のパンダが生存している。生息地はチョンライ山系と拱金山山脈の間で、9245km²を占め、七つの自然保護区と九つの風景区がある。そのほか、ここでは世界の絶滅危倶動物もたくさん生息している。

2006年7月12日世界遺産に登録された。

四川のジャイアントパンダ生息地は7ヵ所の自然保護区と9ヵ所の風景名称区から構成される。

四川省のジャイアントパンダ生息地はジャイアントパンダに加えて、レッサーパンダ、ユキヒョウおよびウンピョウのような他の絶滅危倶種の重要な保護地域でもある。生息地の森林には植物学的に非常に豊かな生態系が保持されており、5000～6000種の植物相の故地とされている。

中国南方カルスト ちゅうごくなんぽうかるすと

【世界遺産委員会の評価】

中国の南方カルスト地形は独特な特徴を持ち、比類のない景観の多様性がある。この遺産は最もカルスト地形として典型的な特徴を持つ地区を選び、それを保護しながら、観光客に不思議なカルスト地形の独特な素晴らしい自然景観を観賞し、高い研究性と観賞価値を持っている。

2007年6月27日世界遺産に登録された。

「中国の南方カルスト」は一つの大きな地区であり、独特で多様なカルスト地形を持っている。中に雲南省の石林などを代表とする高原地区の石林や、貴州省の嘉波を代表とする高原と低地から移行された地帯の峰叢カルスト、重慶市の武隆を代表とする長江北部の深い渓谷のカルストもある。

雲南石林イ族自治県の境界内に位置するカルストは「雄、奇、険、秀、幽、奥、暁」で有名。また歴史が古いため、いろいろなタイプがそろっており、規模が広く、発育が整っており、「造型地形の天然博物館」と称される。

貴州省東南部に位置する嘉波県のカルスト地形は、面積が県の20%を占めており、世界最大面積のカルスト原始林である。

南方カルストの重慶武隆は三つの独立するカルスト系統からなり、「天下第一の洞窟」と称された芙蓉洞、アジア最大の天生橋群、世界でも稀有なカルストタイプの後坪天坑などがある。

三清山 さんせいざん

【世界遺産委員会の評価】

三清山は独特な花崗岩の造型石と多種の植生、また遠近変化の景観および人の心を揺り動かす気候の奇観を互いに結合して特別な景観美効果を創造し、人々を魅了している。

2008年7月8日世界遺産に登録された。

江西省上饒市玉山、徳興の二つ県に位置し、観光地区の総面積は約756k㎡、山に三つの峰（玉京、玉華、玉虚）があり、三清（道教の玉清、上浦、太清）の名声を得た。

そのうち、玉京峰は三清山の主峰であり、標高は1819m。三清山の中で最も高く、一番中心にあり、落差が最大の観光地区である。玉京峰の日の出は三清山の一大奇観になっている。

三清山は歴代道家の修行場所であり、「露天の道教博物館」と称され、そのうち八卦によって配置された三清宮と古建築群は1600数年の歴史を有し、観、殿、府、坊、泉、池、橋、墓、台、塔などの230多くの古建築の集積地となっている。

中国丹霞 ちゅうごくたんか

【世界遺産委員会の評価】

赤い砂礫岩の集中した地球の進化のプロセスを示すカルスト状地形を、丹霞（たんか）地形と呼ぶが、代表的な六つの地域（広東省丹霞山、福建省の泰寧、江西省龍虎山、湖南省の良山、浙江省江朗山、貴州省赤水が、「中国丹霞」として2010年に世界自然遺産に登録された。

2010年8月1日世界遺産に登録された。

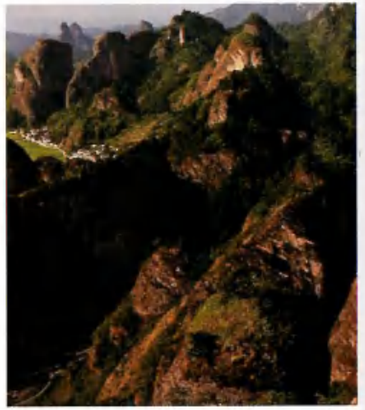
広東省丹霞山は広東省韶関市の仁化県と曲江県が接する地区にあり、面積は290 km²。主峰である巴寮の海抜は618m。

丹霞地形の中で最大規模を誇る福建省泰寧の丹霞地形。高さ100mを超す垂直に切り立った絶壁、無数の穴を持つ不思議な岩肌の巨岩、動物の形に似たユニークな奇岩の数々、平地が少なく切り立った泰寧丹霞の岩山は、「中国丹霞」の中で典型的な特徴を持っている。

江西省龍虎山は丹霞地形の標本のような奇峰が連なっている。また、龍虎山の仙水岩の断崖絶壁には無数の懸墓遺跡があり、まるで巨大な絵巻物のようにみえ非常に神秘的である。

浙江省江郎山岩、穴、雲、滝が一つの山に集まって、壮観である。山々は広々としていて、雲霧がいつも立ち込めているため、空と山は一体となり、景色が素晴しい。

湖南省良山の丹霞地形は多種多様で、高さ、険しさ、深さ、長さ、狭さが一体的に揃っている。特にたくさん螺の形をした峰は、まるでクジラが挙れているように見え、非常に壮観である。



貴州省赤水は豊富な水資源と変化に富んだ地形が滝群を形成し、高さ3m以上のものが数千ヶ所もあり、広い面積に古い植生と2359種の動植物や大切な絶滅危惧動物を有していることが赤水丹霞の最も独特な特徴となっている。

澄江の化石出土地域 ちょうこうのかせきしゅつどちいき

【世界遺産委員会の評価】

澄江化石の群は遠古期複雑な海洋生態システムの形成を記録し、澄江遺跡は少なくとも160種類の生物化石を保存している。古生物学の研究の重要な手掛かりとなっている。

2012年世界遺産に登録された。

「澄江の化石出土地域」は雲南省玉溪市澄江県の帽天山周辺地区に位置し、敷地512万㎡の中に最も完全な初期の海洋古生物化石群を保存している。そして、部門広範な無脊椎と脊椎生命体の硬軟組織構造を展示している。又、ロッキー山系のカナダ側バージェス頁岩よりも古い時代である上に、196種も見付かっている澄江の化石の中で、バージェスと重複するのは6種しかない、最古の脊椎動物であるミロクンミンギアをはじめ、保存された種類の多様性の点から、澄江もバージェス頁岩と同等の重要性は認められるものと判断し、2012年世界自然遺産に登録された。

新疆天山 しんきょうてんざん

【世界遺産委員会の評価】

新疆天山は自然景観と独特の生態系が評価され、世界自然遺産の登録基準を満たしたと見なされている。

2013年6月21日世界遺産に登録された。

天山山脈はユーラシア大陸の内陸部に位置し、世界唯一の巨大な砂漠に挟まれた山脈である。また、多数の氷河、素晴らしい自然の風景、動植物の多様性等の自然特徴は、最も代表的な温帯乾燥山岳生態系である。

新疆天山の東から天池と呼ばれる湖がある。天池は標高1980mほどの高地にあり、冬は氷点下30度以下まで気温が下がり、天池から天山山脈の東部にあるボゴタ峰（標高5445m）を臨むことができる景勝地である。雪を被った連峰とその姿を映す湖で知られるスイスの景観に似ているので「中国のスイス」と呼ばれている。

神農架林区 しんのうかりんく

【世界遺産委員会の評価】

神農架林区はモミ属の原生林などを含む国が直轄する森林地帯であるとその豊かな生物多様性などが評価された。

2016年7月17日世界遺産に登録された。

中国中部、湖北省西端の林区。行政機関は松柏鎮にある。大巴山脈の山間部に位置し、天然林が繁茂し、地下資源が豊富である。大神農架（3053メートル）は大巴山脈東部の主峰で、原始林が繁茂しキンシコウ（金糸猴）など珍しい動物が生息する。また伝説では「野人」が住むといわれているほど、自然が豊かである。標高2500mを超える位置に神農架空港（2014年開港）がある。

世界自然遺産

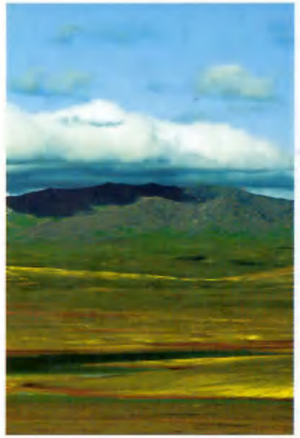
可可西里 ここしり

【世界遺産委員会の評価】

青海可可西里国家級自然保護区や三江源国家級自然保護区に自然美と生物多様性の点で評価された。

2017年7月7日世界遺産に登録された。

ココシリは青海省のチベット高原北部に位置し、中国で51番目に登録された世界遺産で、最も面積の広い世界遺産でもある。標高が高く、高原の動植物が多数生息し、絶滅が危惧されるチベットカモシカ（チルー）の主要な繁殖地としても重要性が高い。国際自然保護連合（IUCN）によると、ココシリは自然遺産の登録基準「VII」（類いまれな自然美・美的価値）と「X」（生物多様性の保全にとっての重要性）を満たしていると認められた。



梵浄山 ぼんじょうざん

【世界遺産委員会の評価】

梵浄山は武陵山脈の山で、生物圏保護区にもなっていると生物多様性の面での価値を評価された。

2018年7月2日世界遺産に登録された。

梵浄山は武陵山脈の山で、江口県、印江県、松桃県、の県境に位置し、国家自然保護区である。原始林被覆率は95%に達しており、世界の同一緯度で唯一の原始植生が完全な形で残っている。

又、梵浄山は仏教の聖地、彌勒菩薩修業したところで、代表的な寺院は護国禅寺、鎮国寺などである。

泰山 たいざん

【世界遺産委員会の評価】

荘厳かつ神聖な泰山は二千年にわたり、帝王が拝謁する対象であり、その山中の人文傑作と自然景観は完璧に調和され、融合している。泰山は中国の芸術家と学者の精神の源流で、古代中国文明と信仰のシンボルである。

1987年12月11日世界遺産に登録された。

山東省中部に位置し、国家5A級の観光地。観光地区は標高15545mの主峰の玉皇頂を中心に、放射状の分布を呈しており、五岳（泰山、嵩山、華山、恒山、衡山）の長といわれる名山。

泰山の日の出、雲海、玉の月、夕霞夕焼け、黄河金帯を含む十大自然奇観と、石塢松涛、対松絶奇、桃園精舎、霊岩景勝など十大自然景観がある。

泰山の人文の歴史は悠久で、文化遺産は豊富である。秦の始皇帝や前漢の武帝らが天地を示巳る儀式「封禅」を執り行なったことでも知られ、今も多くの登山者と参拝者でにぎわっている。山頂近くにはホテルもあるので、一泊してご来光を拝むこともできる。

また、麓にある岱廟（たいびょう）の天貺殿（てんきょうでん）は故宮の太和殿（たいわでん）、曲阜（きょくふ）孔廟の大成殿（たいせいでん）とともに中国三大宮殿建築と称される。

黄山 こうざん

【世界遺産委員会の評価】

黄山は中国の歴史上「震旦国中の第一春山」との名声を得た。今日、黄山はその壮麗な山峰、花崗岩石上で生長した青松と雲海が有名である。全国各地からこの景勝地を訪れる観光客、詩人、画家、撮影家にとって、黄山は永久不変の魅力を持っている。

1990年12月12日世界遺産に登録された。

安徽省（あんきしょう）南部の黄山市に位置する、中国最上級の観光地区で、青松、奇石、雲海、温泉の四つの景観が複合して独特の景観をつくっている。多くの峰々が折り重なる風景は、水墨画の世界を思わせ、長い年月をかけてこのような風景を造りだした自然の不思議を実感することができる。そして古来より「黄山から帰ったら岳を見ない」という諺がある。黄山風景区の面積は154㎢あり、温泉、雲谷、松谷、北海、王屏、釣橋の六大観光地区を主としている。

峨眉山と楽山大仏 がびさんとらくさんだいぶつ

【世界遺産委員会の評価】

西暦1世紀、四川省峨眉山の美しい山頂で、中国の第一の仏教寺院が落成され、次第に仏教の主要な聖地のひとつになっていった。長い年月を経て、文化財は大量に累積し、その中で最も有名なのが楽山の大仏である。仏像の高さは71m、世界の極みと称される。峨眉山は、また種類の豊富な植物で天下に名声を知られ、亜熱帯の植物から亜高山帯の針葉樹林まで、何でもそろっており、一部の木の樹齢はすでに千年を超えている。

1996年12月6日世界遺産に登録された。

峨眉山は四川省成都市から南に約120いkmに位置し、「二つ山が向かい合っており、形は美しい峨眉のよう」から名声を得て、古来より「峨眉天下秀」ともいわれ、「植物の王国」、「地質博物館」とも称賛されている。峨眉山は標高3099mの山で、中国仏教四大名山の一つ。金頂では天候などの条件が揃えば、雲海に映った人の影の周りに光の輪ができる仏光と呼ばれる現象が見られることがある。

楽山大仏は峨眉山から約40km離れた眠江（びんこう）と大渡河（だいとが）の合流地付近にある。大仏は河の氾濫や水難事故を鎮める目的で建造されたもので、713年の着工から約90年の歳月をかけて完成した。高さは約71mあり、世界で最も高い石刻大仏といわれている。

武夷山 ぶいさん

【世界遺産委員会の評価】

武夷山脈は中国東南部で最も有名な生物の保護区であり、古代から生き残ったたくさんの植物の保護区でもある。そのうちの多くの生物は中国特有のものとなっている。九曲渓の両岸の峡谷は美しく、寺と廟が多い、そして考古学上でも高い価値がある。

1999年12月1日世界遺産に登録された。

福建省西北部に位置し、「碧水の丹山」、「東南の美しい奇界」と称され、中国最上級の観光地区である。

武夷山は36の峰からなる山で、その間を全長60kmの九曲渓（きゅうきょくけい）が山を縫うように走っている。山頂の天遊峰に登ると、九曲渓を一望でき、そこからの眺めはまさに絶景である。また、九曲渓では、竹をつないだいかだに乗って、ゆっくりと武夷山の景色を楽しめる渓流下りもできる。

武夷山は豊かな歴史文化財を有する。観光地区内にある漢（紀元前206～220年）閩越王城遺跡は、中国長江以南で最も整った漢代の古城遺跡である。それ以外にも、中国末代の儒学者、朱熹（しゅき）は武夷山で50数年間勉強し、著述を行い、弟子を育って、朱子理学はここから次第に広がりはじめ、正統的な哲学思想になった。

麗しい中国

中国駐大阪観光代表処
TEL:06-6635-3280　FAX:06-6635-3281
〒556-0017　大阪市浪速区港町1-4-1　OCATビル4F
http//www.cnta-osaka.jp

ご覧いただきありがとうございます！